

このマップは、水害時に気をつける点や取るべき行動について、町ごとにまとめたマップです。

よく目にするところに貼り、普段から家族や友人等と話し合しましょう

手づくりハザードマップが対象とする災害「内水はん濫(排水できずに浸水すること)や河川のはん濫などが発生し、さらに強い雨が降り続き、大きな水害に発展する恐れがある状況を対象としています。

避難をする時の注意事項

- ① 避難所(荻原小学校)への避難路の冠水に注意
- ② 浸水してからの避難は危険
- ③ 避難するときは、非常持ち出し袋や、保存食、毛布などを持って
- ④ マンホールの上は滑りやすいので注意

下組の今後の課題

- 下組の強い味方である人材(専門知識のある方)の把握。
- 災害弱者の把握を行い、援護の方法を話し合い共通認識とする。
- 安否確認の訓練をパワーアップさせ実践的なものとする。

降雨量・河川水位・潮位の情報は、愛知県ホームページ「愛知県 川の防災情報」でリアルタイムで見ることが出来ます。

作成：NPO法人 愛知レスキュー
協力：荻東町内会、荻東自主防災組織連絡会、荻東女性の会、西尾市吉良消防団第2分団、荻東子ども会、吉良町婦人消防クラブ

- 避難所 (緑の同心円)
- 一時避難所 (緑の単円)
- 水に浸かりやすい場所 (矢印は浸水の広がる方向)
- 水が流れ込む方向 (青い矢印)
- 雨水マンホールや段差 (赤いX)
- フタの開いた側溝 (赤い折線)
- 水が溢れてきそうな箇所 (赤い逆V)
- 避難路 (緑の矢印)
- 堤防決壊後の避難路 (緑の点線)
- 標高(メートル) 5.0
- ポンプ場 (黒い正方形)
- 水が最初にたまる場所 (黄色い三角)
- 自主防災会本部 (赤い三角)
- その他危険箇所 (赤い四角)

避難をする時の心得

- ① 避難準備情報が出たら、テレビ・ラジオの気象情報、矢作川洪水情報、市役所からの避難情報等へ注意
- ② 避難の準備を進める。とくにお年寄りや小さな子供、体の不自由な方のご家庭は避難を始める。
- ③ 避難可能な水位はひざ下まで。避難が遅れた時は丈夫な建物の2階以上に逃げる。
- ④ 避難する時は班ごとに声かけを
- ⑤ 班長は班員の安否確認と避難状況を自主防災会会長へ報告

荻原ポンプ場(自動運転)
・運転中は、屋上のハライト点灯
・矢崎川水位が上昇すると排水されない